



I 章 はじめに

1

ガイドライン作成の経緯と目的

1 ガイドライン作成の経緯

『がん患者における気持ちのつらさガイドライン 2024年版』（以下、本ガイドラインとする）は日本サイコオンコロジー学会（Japan Psycho-Oncology Society：JPOS）と日本がんサポーターケア学会（Japanese Association of Supportive Care in Cancer：JASCC）の合同プロジェクトとして策定した。日本サイコオンコロジー学会とは、がんに関連した心理・社会・行動的側面について科学的な研究と実践を行い、がん患者とご家族により良いケアを提供していくことを目指している学会である。サイコオンコロジー（Psycho-Oncology）とは、サイコロジー（Psychology：心理学）やサイカイアトリー（Psychiatry：精神医学）という言葉の「サイコ」と、オンコロジー（Oncology：腫瘍学）という言葉からの造語で、「精神腫瘍学」と翻訳されている。日本サイコオンコロジー学会は1987年に創設され、今日までがん医療における心理社会的ケアについて、その専門家を中心にさまざまな情報発信を行ってきた。

日本がんサポーターケア学会とは、がん医療における包括的な支持療法を教育、研究、診療を通して確立し国民の福祉に寄与することを基本理念とする学会である。日本がんサポーターケア学会では、さまざまな支持療法に関する最新の知見を収集し、現時点における最も適切な診療指針を発信していくことを重要な役割の一つとして位置づけている。

両学会は互いに密接に連携し、がん患者の心理社会的支援に関する適切な診療指針の作成・公表やセミナー開催などの活動を通して、わが国のがん医療における良質な「こころのケア」の均てん化を目指している。

近年の医学の進歩には著しく、さまざまな疾患や問題に対して日々新しい知見が生み出されており、がん患者への精神心理的ケアについても例外ではない。がん患者における精神心理的支援においては、広くがん患者に関わるすべての医療者が適切な一次的ケアを提供できることが何より重要である。しかしがん医療と同様に本領域においても新規知見は膨大にあり、精神・心理的支援を専門領域としない医療者がすべての新しい知見に精通することは現実的に不可能である。そこで日本サイコオンコロジー学会と日本がんサポーターケア学会では、すべての医療者ががん患者に対してエビデンスに基づく適切な精神心理的ケアを提供できるようになるための一助として、「がん医療におけるこころのケアガイドラインシリーズ」という精神心理的問題に関する診療ガイドラインの作成に取り組んできた。

日本医療機能評価機構（Minds）では、診療ガイドラインを「健康に関する重要な課題について、医療利用者と提供者の意思決定を支援するために、エビデンスのシステマティックレビューによりエビデンス総体を評価し、益と害のバランスを考慮して、最適と考えられる推奨を提示する文書」と定義している。診療ガイドラインの作成において最も大切なことは信頼性である。その信頼性を確保するためには、個人の恣意的な考えのみで記載されるので

はなく、エビデンスに基づいて科学的な判断がなされること、そして作成プロセスそのものに普遍性と透明性が担保されていることが重要である。この信頼性を確保するために、日本サイコオンコロジー学会と日本がんサポーターケア学会では、Mindsによる『診療ガイドライン作成マニュアル』に則ってガイドラインを作成しており、これまでに「がん患者におけるせん妄ガイドライン」「がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン」「遺族ケアガイドライン」（いずれも2022年、金原出版）を上梓してきた。

2 ガイドラインの目的

医療の長足の進歩により、がんに罹患することは必ずしも死に直結しない。しかし、かつてがんの死亡率が非常に高かったために、社会的にはがん＝死との認識が残っており、がんの診断を受けることは、依然として患者に強い精神心理的衝撃をもたらす。また、一度治療しても再発をすると根治を望めなくなる疾患の特性から、「再発への恐怖」を経験することもある。さらに、現在でも一部のがん種や再発したがんは予後が不良であるために、病の過程において強い精神心理的苦痛が生じることもある。

現在のがん医療においては、生存やがんの縮小といったハードアウトカムのみならず、生活の質（quality of life：QOL）や自覚症状といった患者報告アウトカムも重要なアウトカムと位置づけられるようになってきている。特に精神心理的苦痛は頻度が高く、強い苦痛をもたらすこと、患者のQOLが大きく悪化されることなどから、その緩和はがん医療における重要なゴールの一つである。

そこで本ガイドラインでは、がん医療に携わる医療者を広く対象として、がん患者における精神心理的苦痛について、その最新の知見を総括したうえで評価と標準的対応について示し、患者のつらさが緩和されることを目的とした。また、このがん患者における精神心理的苦痛について、なるべく包括的な情報を提供するために、総論の部分も充実させることとした。

（奥山 徹，貞廣良一）